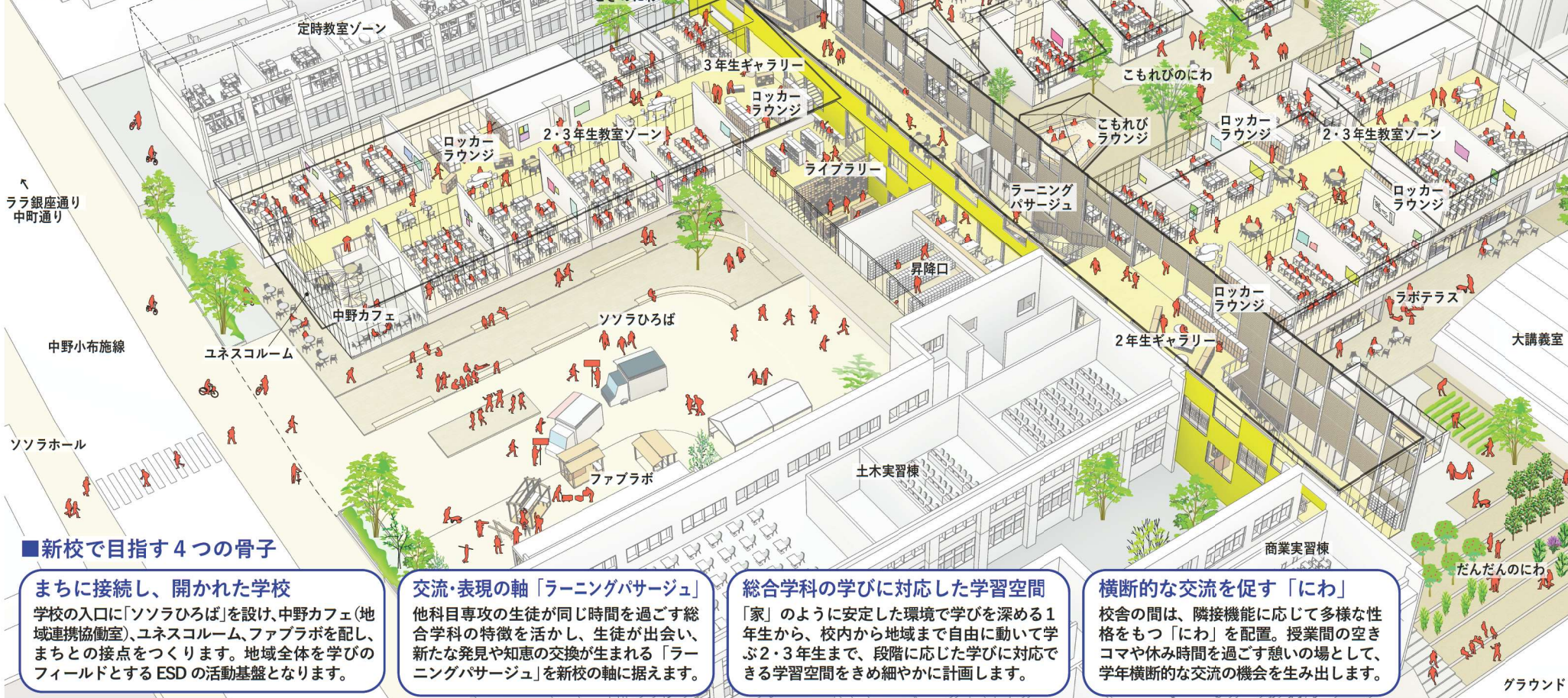


地球規模で考え、地域社会で行動を起こす新しい高校の姿「総合学科×ESD」の実現

かつて天領中野として栄えた由緒ある地にたつ中野総合学科新校では、地域から世界まで幅広い視野をもって他者と共同し、未来に挑戦できる人材の育成が期待されています。

私たちは、中野のまちを形づくる南北の“通り”の都市構造を新校の骨格に転写し、学校を南北に貫く「ラーニングパサージュ」を提案します。そこを起点に学びや交流のダイナミズムが生まれ、地続きでまちに伝播してゆくようなイメージを思い描いています。

地球規模で考え、地域社会で行動を起こす新しい高校の姿「総合学科×ESD」の実現を目指します。



■新校で目指す4つの骨子

まちに接続し、開かれた学校
学校の入口に「ソラひろば」を設け、中野カフェ(地域連携協働室)、ユネスコルーム、ファブラボを配し、まちとの接続をつくります。地域全体を学びのフィールドとするESDの活動基盤となります。

交流・表現の軸「ラーニングパサージュ」
他科目専攻の生徒が同じ時間を過ごす総合学科の特徴を活かし、生徒が出会い、新たな発見や知恵の交換が生まれる「ラーニングパサージュ」を新校の軸に据えます。

総合学科の学びに対応した学習空間
「家」のように安定した環境で学びを深める1年生から、校内から地域まで自由に動いて学ぶ2・3年生まで、段階に応じた学びに対応できる学習空間をきめ細やかに計画します。

横断的な交流を促す「にわ」
校舎の間は、階接機能に応じて多様な性格をもつ「にわ」を配置。授業間の空きコマや休み時間を過ごす憩いの場として、学年横断的な交流の機会を生み出します。

【まちの連関を学校に引き込み、地域全体に”学びのフィールド”を形づくる】

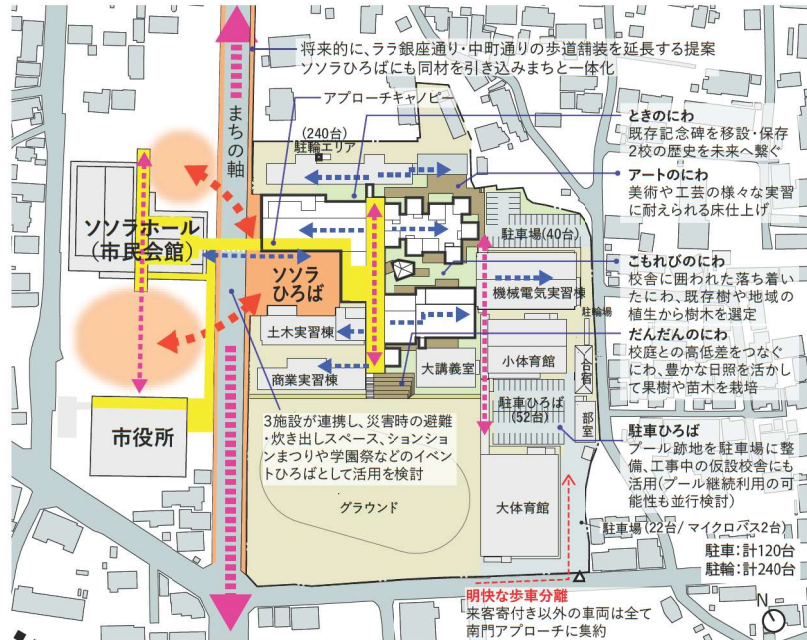
中野ではまちを南北を貫く中野小布施線を中心に商業が集積し、陣屋等の史跡、公園、公共施設、地元企業が立地しています。新校では統合校で行われている地域活動を基盤にこれら地域資源を読み込み、まち全体に学びのフィールドを展開します。



駅から新校までのゾーンは市役所やソラホール、図書館など公共施設の整備が近年進んでいます。新校の計画には、これらの施設との関係を構築するとともに、まちの活性化の契機となる新たな拠点性が求められています。



新校の玄関口に配置する「ソラひろば」は、ソラホール(市民会館)、中野市役所と連携し、地域の活動やイベントの受け皿となる中野のパブリックスペースの核となります。新校とまちが結びつき、継続的な協働関係を構築することが、まちづくりの新たな原動力となります。



【「総合学科×ESD」の特徴に適応した配置計画】

■新旧を有機的につなぎ快適な学習環境を確立、多様な教育課程への対応
厳しい冬の寒さを考慮し、動線が屋内で完結することを前提に検討しました。豊富な選択科目によって校内の移動が頻繁に発生し、かつ大小講義への柔軟な空間対応が求められる総合学科の特徴と、協働的な学び(交流・対話)や地域社会との連携の場が求められるESDの特徴を重視し、それらに最も適応可能と考えられる配置検討案①を提案します。

配置検討案	①:南北軸案(一部平屋建)	②:口の字校舎連続案(総2階建)	③:千鳥配置校舎案(一部3階建)
概要	敷地の中央にラーニングパサージュを南北に通し、それを軸に既存校や新校棟が東西にのびる配置	中庭を取り囲む口の字型の教室群を複数連結し、口の字は新校棟と既存校を横断して構成する配置	建物ボリュームと外部空間(吹抜空間)を千鳥状に配置し、一部3階建てでコンパクトに構成する配置
A	既存校と新校棟の屋内移動が可能。新校棟の垂直移動が少なく、既存校への移動が容易	既存校と新校棟が最も連続した案。新校棟の垂直移動も少ない	新校棟がコンパクトな分、CRと既存校が遠い。新校棟も3階となるため垂直移動も長い
B	全て新校棟にあり、日当たりも良い	一部既存校利用、小さい中庭に面したCRも	全て新校棟の2・3階にあり、日当たりが良い
C	教室群は中廊下型のため、豊かなFLAが可能	教室群が片廊下型のため、FLAの面積は狭い	4教室で構成された群の中心に豊かなFLA
D	西側道路に面して地域連携エリア、昇降口前に街のイベントにも使えるまえば(多目的広場)	街に面したまえばには広いが、地域連携エリアが道路からはやや後退している	街と地域連携エリアに近いが、地域連携・管理ゾーンが教室群から離れ、独立している
E	抜けのある外部空間が低層のCRと近接	中庭タイプのため抜け(空間の拡がり)はない	豊かな庭に囲われた配置だが接地性は低い
F	期をかけた段階的な工事により最小限の仮設校舎ですすめることが可能	新校棟は一体的な建築のため全ての除却と建設を同時に行う必要がある	一体的建設が必須のT型校舎位置が複数の除却棟と重なるため、仮設校舎の規模が大きくなる

■両校の歴史を継承し、まちづくりの起点となる「ソラひろば」

学校の玄関口には地域イベントにも対応した多目的の「ソラひろば」を設け、向かいのソラホール(市民会館)、中野市役所と連携して中野のパブリックスペースの核を構成します。西高校で実践されてきた中西珈琲の取組を継承した「中野カフェ(地域連携協働室)」、立志館高校の専門性を活かしたものづくり工房「ファブラボ」を、両校統合の象徴としてひろばに面して配置し、地域の人々を迎え入れます。ひろばはララ銀座通り・中町通りの歩道舗装を引き込み、様々な活動のモードチェンジをフレキシブルに受け入れる設えを検討します。



新校棟の中野カフェと土木実習棟のファブラボに挟まれ、様々な活動で賑わう「ソラひろば」



ユネスコスクールの取組を中心とした学校の活動が展示され、地域連携の核ともなる「中野カフェ」

【多雪地域で開放的な一体空間を実現する構造計画】

■多雪地域に合理的な鉄骨造

垂直積雪量 100 cm以上の荷重を受ける耐久性を確保しながら開放的な学習・生活空間を実現すること、既存校舎が混在する難易度の高い敷地条件における現場工程の短縮化等を考慮し、新築部には鉄骨造を採用します。

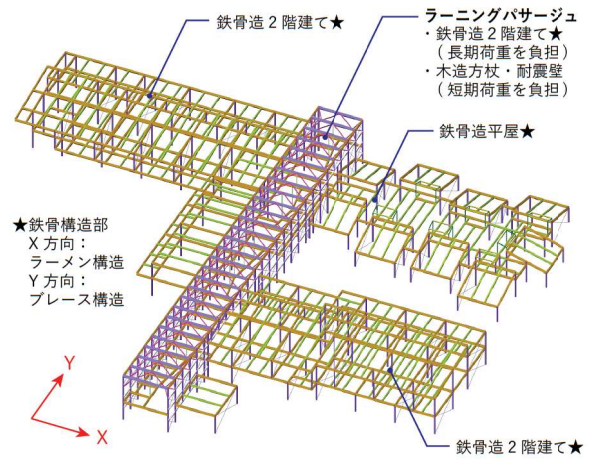
■全面耐火建築物とするメリット

新築部を全て「耐火建築物」とすることで防火区画を減らすことができ、一体的な空間を連続させることができます。火熱遮断壁やコア(※)に制限されずに、将来的な校舎の機能改変に対しても柔軟に対応可能です。

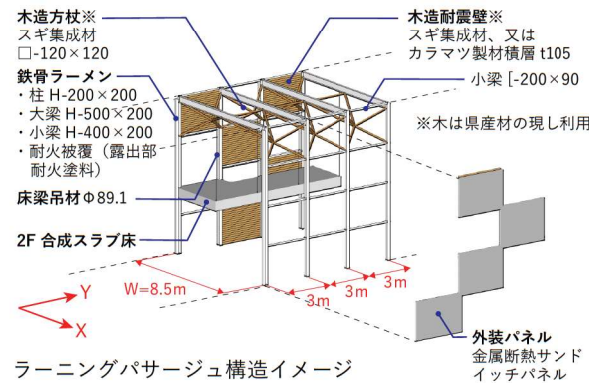
※令和6年「防火規制に係る別棟みなし規定」

■県産木材と鉄骨造のハイブリッド

ラーニングパサージュは、鉄骨ラーメンと木造の方杖・耐震壁によるハイブリッド構造とします。積雪・地震の短期荷重を木造の方杖が受け、地震の短期荷重を耐震壁が受けることで鉄骨のメンバーを抑えます。地域の木の温もりに包まれた居心地の良い空間になるとともに、耐震壁を掲示板や展示棚の下地として直接用いることもできます。



新築部全体の構造イメージ

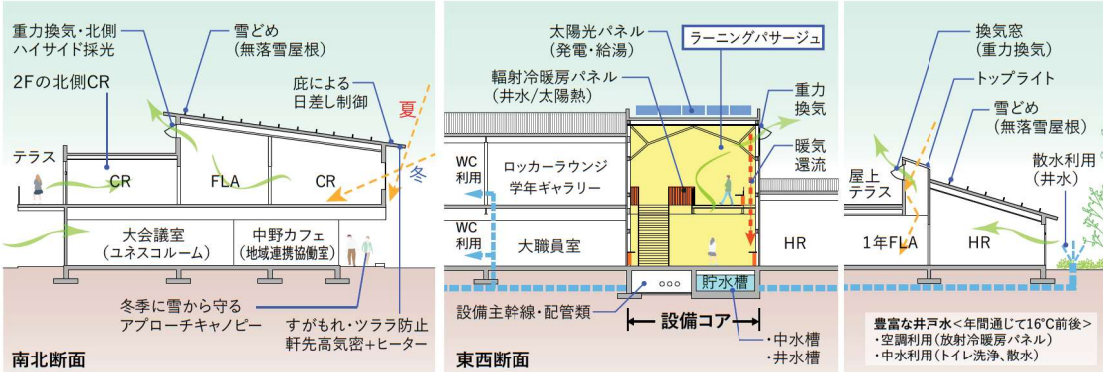
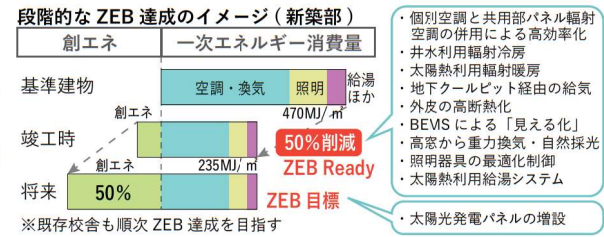


ラーニングパサージュ構造イメージ

【中野の気候風土に適応した、サステナブルな設備計画】

■将来のZEB達成を目指した設備計画

竣工時に新築部でZEB-Readyを達成。その後、段階的に太陽光発電パネルを増設します。既存校舎は改修や建て替えのタイミングで断熱強化や高効率空調機等の導入を順次行い、長期的な視野で学校全体のZEB達成を目指します。



■再生可能エネルギーの活用(豊富な井戸水・長い日照時間) / 運用・維持費の抑制

井水・太陽熱利用の輻射冷暖房パネルを共用空間に設置し、自然通風+ハイサイド窓による重力換気、クールピットなどパッシブ技術の活用により運用・維持費を抑制します。

■寒冷地の特性と積雪に留意した計画

建築外皮・開口部の断熱性能を重視します。積雪に対しては、全範囲無落雪屋根で計画。勾配屋根の軒先は十分に高気密な納まりとし、すかもれやツララの発生を抑制します。

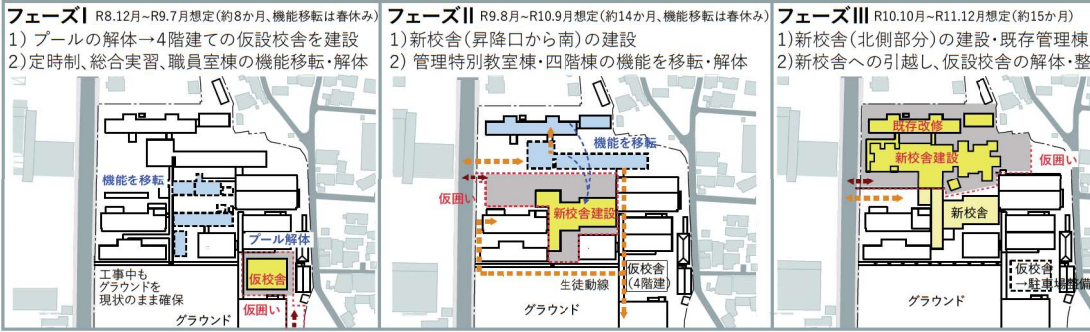
■定期的な保守点検、将来の機能改変を考慮した「設備コア」

ラーニングパサージュを「設備コア」として整備します。地下に設備の主幹線・配管類を格納するピットを設け、付随する校舎にライフラインを供給します。定期的保守点検がしやすく、将来の機能改変・校舎建て替え時にも接続が容易となり柔軟に対応できます。

【事業全体のコストバランスを考慮した、合理的な建て替え計画】

■学習環境の維持と、安全を最優先した建て替え計画/現場工程の短縮化による負担の軽減

工事と生活動線を完全分離し、学習環境の維持と安全に配慮します。既存校舎が混在する範囲の難易度の高い工事のため、基本計画段階から綿密に施工手順を検討・検証します。新築部を鉄骨造として現場工程を短縮、仮設校舎を最小限としてコスト負担を抑えます。



【イニシャル・ランニングコストを抑える工夫】

■状況の変化に対応した丁寧なコスト管理と品質の保持

計画・設計のそれぞれの段階にコストのチェックポイントを設け、新校に求められる基幹機能・基本的な品質を保持。建設物価の変動など不確定要因に留意し、常にコスト安全側の管理を行います。

■カリキュラム構成と連動した床面積の合理化

計画の初期から諸室機能の重ね使いや合理化を検討し、床面積とコストの調整を行います。

Table with 2 columns: 'イニシャルコスト低減の工夫' and 'ランニングコスト低減の工夫'. It lists various cost-saving measures like curriculum integration and energy efficiency.

Table comparing floor area and costs between existing and new buildings, showing a total area of 18,027.0m² for the new building.



生徒たちの交流でにぎわう様々な外部空間が用意された、こもれびのにわ



木質の柔らかい空間に抱かれて個別/協働の学びの場が連続するラーニングパサージュ



吹抜内のM2階を介してラーニングパサージュ2階へと立体的につながるライブラリー



東側の山並みに抱かれ、生徒たちの多様な学びのシーンをおおらかに受け止める大きなワンルーム「ラーニングパサージュ」の断面イメージ

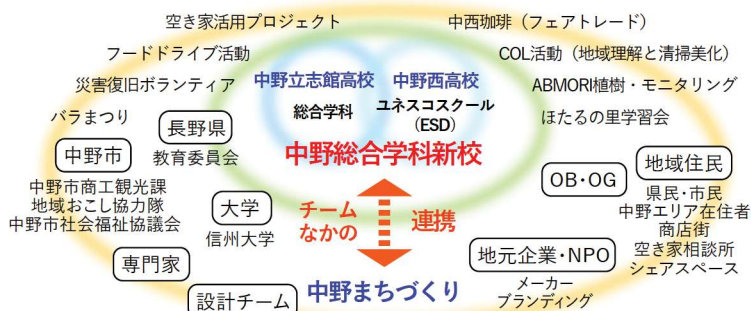


ライブラリー2階とつながる、管理棟2階のロッカールーム・学年ギャラリー

【両校とまちの関わりを未来へ引き継ぐ】

■新校創設のプロセスを新しいまちづくりの契機と捉える
 統合する両校は、すでに中野で多くの人々や機関、まちの活動と深く結びついています。立志館高校では総合学科の専門性を活かした「空き家活用プロジェクト」、西高校ではユネスコスクール(ESD)の一環として「中西珈琲」「COL活動」など様々な活動が展開されています。そのように地域と強固な結びつきを培ってきた両校の統合は、新たなまちのありかたを考える絶好の機会となります。新校創設を単に両校間の課題とせず、中野のまちづくりと連携した課題として捉えることで、両校の生徒やOB・OG、地域に関わる方々が「自分ごと」として継続的に関わることのできる協力関係を構築します。

「総合学科×ESD」が中野に新たな化学反応をもたらす



【“共につくる力”を引き出す】

■共につくるプロセスの構築

生徒／先生／地域／自治体／専門家といった様々な立場の人々が集まるプラットフォームとして「チームなかの」を結成し、会議やWS(ワークショップ)等を主導し、ソフトとハードの両面から新しい高校のあり方を模索します。地域全体が学びのフィールドとなるための連携を構築していきます。

■新校プロジェクトのプロセスの「見える化」

WSの報告や進捗状況を生徒と共にSNS発信します。生徒が自分ごととして関わりとともに、細かいログを残すことで次年度以降の入学生にも計画の経緯や蓄積された想いを引き継ぎます。基本計画策定時には計画プロセスやWS結果をビジュアルに伝える小冊子やパンフレットを制作して配布します。

■「中野分室」の設置

まちづくりに関わりを持ち、地域との密な連携を図るために、設計チームの分室をまちなかに開設します。開放的な路面店とし、市民や高校生が立ち寄り滞在できる「居場所」を作ります。地域の環境・風土を体感しながら基本計画をまとめます。

【交流の芽を育てるワークショップ】

■世代・立場をこえた「対話の場所」をつくる

WSでの協働自体が生徒にとって探究的な学びであり、地域交流を深める貴重な機会と考えます。そこでは、世代・立場をこえた多様な主体との対話が重要となります。多くの方々に参加して頂けるよう、曜日、時間、会場を都度設定します。

■両校がひとつになることの可能性をふくらませる

統合にあたって両校の伝統や活動、地域交流の輪を新校の生徒たちに引継げるよう、WSを通じてそれぞれの学校の歴史や卒業生の想いを学びあい相互理解を深めていきます。

■新校開校後につながる種をまく

基本計画策定後もWSを継続開催することで生徒や住民に新校建設のプロセスを伝えるとともに、地域と学校の交流を継続させ、開校後も高校づくりに関わる仲間を増やします。

【確実なステップによる計画プロセス】

■余裕を持った基本計画工程

初期段階で基本計画のゴールを発注者と共有することで、計画策定に係る業務量を把握し、合理的かつ余裕を持った計画工程を作成します。これは設計においても同様です。

■専門性とユーザー視点の両立

設計者には高い専門性により多様な意見を空間に落としこむ能力が求められますが、一方で、自らも利用者の立場からフラットな議論に参加することが重要と考えます。これら縦糸(専門性)と横糸(ユーザー性)を編みこんで、強靱な織物(「なかの式」学びの空間)を作っていきます。

■あらゆる可能性を排除せず、テーブルに載せる

基本計画から携わることで、出来るだけ多くの可能性を議論の対象とし、皆が納得する新校の姿に着地させるプロセスとします。重要な分岐点においては必ず複数案を比較検討し、決断の履歴をいつでも参照できるようにします。

■将来の建替えプロセスまで見据えた計画

既存利用となる各実習棟の専門諸室の利用方法や既存棟へのICT導入も含め、学校全体での一体的な検討を行います。また将来、今回保存活用する建物が建替えとなる時に校舎がどう展開するのかまで想定して、検討を行います。

■懇話会との連携／他地域のNSD計画との学びあい

中野総合学科新校再編実施計画懇話会にて深められた議論の内容を尊重し、懇話会との連携を重視します。また先行・並走する他地域のNSDの計画と学びあい、中野地域の特性を反映した、個性ある基本計画を策定します。

